

日野自動車株式会社



会社 使命

人、そして物の移動を支え、
豊かで住みよい世界と未来に貢献する

会社名

日野自動車株式会社

本社所在地

東京都日野市日野台3丁目1番地1

創業

1910年（明治43年）8月1日

設立

1942年（昭和17年）5月1日

製品

トラック・バス、各種エンジン、補給部品、
小型商用車・乗用車（トヨタ自動車（株）からの受託車）

売上高

1兆4984億4200万円

※2021年3月期（連結）

営業利益

122億5000万円

※2021年3月期（連結）

日野自動車の歴史

HISTORY of Hino Motors 日野自動車のあゆみ

1917年に日本人の設計による初の純国産トラックの試作に成功して以来、人と物の移動を技術で支えてきました。戦後はディーゼルエンジンを搭載したトレーラートラックで日本の復興を支え、高度成長期には大量輸送を担うトラックやバスを開発。近年では、AI・IoTなどの最新技術を駆使して、人と物の移動にまつわる社会課題に挑んでいます。いま100年に一度といわれる大変革の時代、日野自動車の新たな挑戦がはじまっています。



● TGE-A型トラック(1917年)
日本初の純国産トラックで、日野自動車の原点となる。



● 日野コンテッサ1300デラックス(1964年)
第11回東京モーターショーに出展した世界戦略車「コンテッサ1300デラックス」。性能の高さとデザイン性に世界から絶賛の声が集まった。



● HIMR(1989年)
第28回東京モーターショーでお披露出した世界初のハイブリッドバス。1991年に市販開始となった。

● T10-20型
トレーラートラック
(1946年)

純国産の大型トラックは、敗戦で自信を失った国民を勇気づけた。



● 日野スパーダルフイン(ドルフィンターボ8.8)(1981年)

世界初のダウンサイジングエンジン、世界初のカーブ・インペラー・ターボコンプレッサーなど、新しいアイデアと技術が満載のパワフルな低公害車の誕生。



1910s

ガス灯から自動車産業へ

日野自動車の歴史は、1910年の東京瓦斯工業設立からはじまる。当時、ガス事業は近代化の象徴だったが、新しい時代の到来を予感し、自動車産業に進出。



1940s

ディーゼルエンジントラックから復興のスタート

戦時下で開発していたディーゼルエンジンの技術を活かし、巨大なトレーラートラックを開発。



1950s

総合自動車メーカーへの礎を築く

高度成長期の幕開け。景気の波に乗って自動車メーカーの増産が続き、本格的なモータリゼーションがはじまる。

1960s

モータリゼーションに挑む

1966年にトヨタと提携。日野自動車の乗用車は生産中止となる一方、「トヨタハイラックス」を羽村工場で生産開始。トヨタ日野連合の礎を築く。

1970s

No.1トラックメーカーとして排ガス規制に取り組み

日野自動車が国内大中型トラックトップシェアメーカーとなった翌年の1974年からディーゼル車排ガス規制が始まる。段階的に規制が厳しくなるなか、技術陣は基準のクリアに挑み続けた。



● HINO600
北米市場で主流のボンネットタイプを北米専用車として開発。のちに全米トラックディーラー協会の2011年トラック・オブ・ザ・イヤー(中型部門)を受賞。



● 日野デュトロ ハイブリッド
2003年に発売。「ヒノノコン」の愛称で親しまれている小型トラック「デュトロ」に、環境問題の深刻化を見据えハイブリッドシステムを搭載。日野自動車ハイブリッド車のイメージリーダー的存在。



● 日野レンジャー
2017年、16年ぶりにフルモデルチェンジ。2018年には安全性能や燃費性能の向上に加えて快適性能を追求してマイナーチェンジ。

● 日野プロフィア ハイブリッド
2019年新発売。AIを活用した世界初のハイブリッドシステムを搭載し、ディーゼル車の基本性能をそのままに、環境負荷低減やドライバーの疲労軽減にも貢献。



● 日野パンチョ
コミュニティバスに最適な乗り降りしやすい低床と広いフルフラットスペースが特長で、2006年のグッドデザイン賞を受賞した。



● 日野セレガ
トラック・バス世界初となる「ドライバー異常時対応システム(EDSS)」を標準装備した次世代型大型観光バス。2019年には、最新AI技術の機能を追加しマイナーチェンジ。



● 日野ブルーリボン ハイブリッド 連節バス
環境問題や運輸業界のドライバー不足といった社会課題解決のため、いすゞ自動車と国産初のハイブリッド連節バスを共同開発。路線バスでは世界初のEDSSとなる標準装備、大量輸送と高い安全性を両立。

1980s

日野が環境技術をリードする時代へ

自動車メーカー各社がさまざまな技術を競い合った1980年代。日野自動車の技術陣も独自の環境技術をきかめ、その後のハイブリッド時代の先鞭をつけた。

1990s

日本の日野から世界のHINOへ

会社創立50周年(1994年)を機に、企業理念とロゴマークを刷新。円高の影響で海外生産が本格化するなか、グローバル体制づくりを強化。



2000s

トヨタグループの一員として

トヨタ自動車の子会社となり(2001年)、「HINO」ブランドとしてトヨタグループのバス・トラック部門を担う。2007年に海外販売台数が国内販売台数を初めて上回る。



2010s

真のグローバル企業として新たな挑戦

世界的な環境規制の強化を背景にEVシフトが加速。ICT技術の進歩に伴いコネクティッドカーや自動運転に期待が集まり、自動車産業は100年に一度の大転換期を迎える。

2018~

お客様・社会課題の解決に向け事業変革を加速

お客様・社会の課題解決に向けて、2018年10月に中長期経営戦略「Challenge2025」を発表。同じ志を持った「仲間づくり」をさらに推進していく。日野自動車の新たな領域への挑戦は続く。



Toward the Future

主要製品



大型トラック：プロフィア



中型トラック：レンジャー



トントン、トントン、
ヒノニトン♪

小型トラック：デュトロ



中～大型トラック
HINO 600 series(北米専用車)



大型観光バス：セレガ



小型路線バス：ポンチョ

サステナビリティレポート



1 安心・安全で、環境にやさしく、人と物が、自由に最適に移動できる社会の実現

日野が取り組む社会課題

重大交通事故

トラックは大きく重く、バスは多くの命を預かっている。ひとたび事故が起これば、大きな事故となる。

ドライバー不足

物流業界における積載効率低下

e-コマースの拡大に伴うドライバー不足や少量多品種の品揃えによる積載効率の低下。

新興国のさらなる発展

特にASEANを中心に、経済成長や交通インフラ整備に伴う商用車需要がより一層高まり、スピード感のある商品提供が求められている。

地球温暖化

CO₂排出量の削減が全世界・全産業共通の課題。

輸送効率の悪化

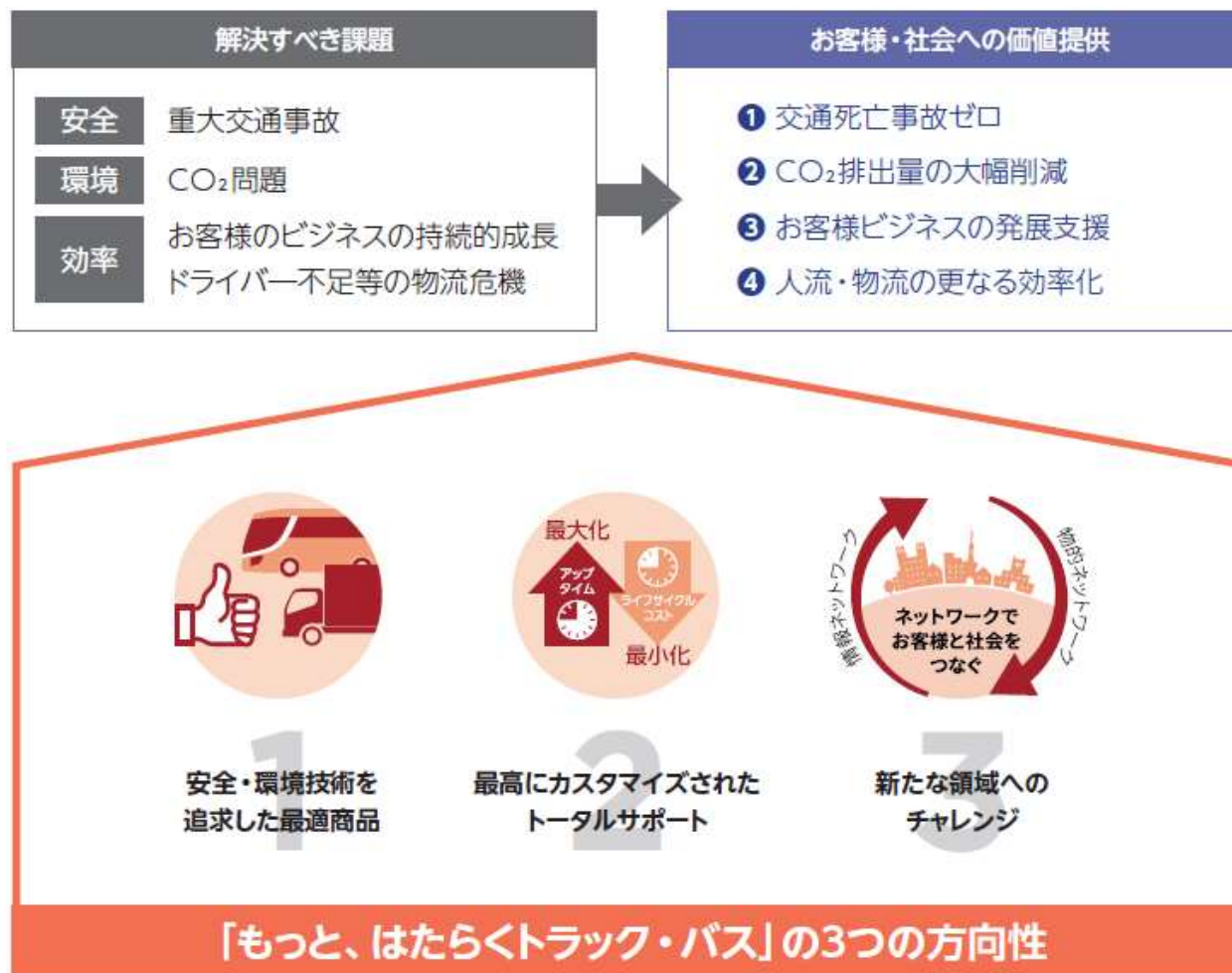
少量多品種の品ぞろえによる効率の悪化。

移動困難者の増加

高齢化社会などの影響により、過疎地を中心に移動困難者が増加。

日野 Challenge2025

サステナブルな社会の実現に向けた3つの方向性



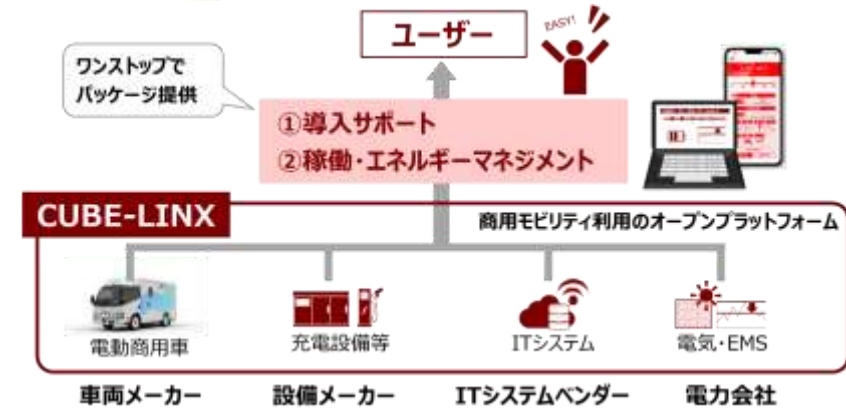


日野自動車の取り組み

CASE/MaaS浸透に向けインフラやソフト面でもお客様をサポートしていく



CUBE-LINX × 関西電力
powered with hino!









NEXT LOGISTICS



2050年カーボンニュートラルに向けた2030年マイルストーンを設定

*グローバル目標

日野環境 チャレンジ2050	お客様・社会起点の あらゆる方策を追求	日野環境 マイルストーン2030
<ul style="list-style-type: none">  ライフサイクルCO₂ゼロチャレンジ  新車CO₂ゼロチャレンジ  工場CO₂ゼロチャレンジ 	<p>脱炭素エネルギーの導入</p> <p>技術開発・普及促進</p> <p>輸送効率化</p> <p>製造工程の脱炭素推進</p>	<p>13年比 ▲25%</p> <p>13年比 ▲40%</p> <p>13年比 ▲40%</p>
<ul style="list-style-type: none">  水環境インパクト最小化チャレンジ 	<p>使用量低減・排水質管理の徹底</p>	<p>量：地域特性を考慮した節水・循環利用 質：厳しい自主基準での徹底管理</p>
<ul style="list-style-type: none">  廃棄物ゼロチャレンジ 	<p>資源循環の推進</p>	<p>18年比 ▲30%</p>
<ul style="list-style-type: none">  生物多様性インパクト最小化チャレンジ 	<p>地域環境に応じた保全活動</p>	<p>「自然と共生」する工場づくり</p>

APEV : 国際学生“社会的EV”デザインコンテスト2022に向けて

学生目線での企画提案やアイデアから日野メンバーも学ぶ姿勢

5 ダイバーシティ&インクルージョン



6 人流・物流を支える人財を育てる



日野が取り組む社会課題

人権に関わる課題

人種・宗教、信条などさまざまな「ちがい」から差別が生まれ、地域間・国家間の紛争に発展している。

働き方に関わる課題

- 企業の外国人、障がい者の雇用は年々増加しており、充実した環境づくり、教育制度などが求められている。
- 共働き世帯は増加傾向にあり、男女分け隔てなく育児参加できる環境づくりが求められている。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

グローバル市場で日野が持続的成長を続けるため、多様な人財が活躍できる組織づくりが不可欠です。多様化するお客様や社会のニーズに応える商品・サービスを提供するためにも、「ちがい」とらわれず、社員一人ひとりの能力を存分に発揮できる風土づくりに取り組みます。

日野が取り組む社会課題

社会基盤を支える人材の育成

- 世界各地で人流・物流に関するさまざまな社会課題・環境課題が顕在化している。
- 国内の約5割の整備事業場で整備士が不足(日産連 自動車整備白書 平成29年度版)。
- 自動車整備士を目指す若者が激減する一方、整備要員の高齢化にも直面。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

トラック・バスは社会基盤を支えるインフラであり、それらの稼働が止まることのないように常に高品質で迅速な整備を提供することが求められています。お客様に高品質かつ迅速な整備を提供するとともに、企業内訓練校である日野工業高等学園で、将来的に必要とされる技術にも対応できる人財育成に注力していきます。